

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500710		
法人名	(株)ふれあい介護センター		
事業所名	グループホームふれあい愛知		
所在地	宜野湾市愛知3-17-20		
自己評価作成日	令和6年3月22日	評価結果市町村受理日	令和6年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4770500710-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和6年4月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度も、自立度の高い利用者様が入所され、台所での手伝い(洗い物)を積極的に行ってくれたり、レク活等も賑やかになりました。 コロナ制限も緩和され、外出出来るようになった事で、利用者様と一緒に買い物へ行く事が出来るようになったり、家族様と外食へ出かけられる事も出来るようになりました。 毎日笑いのたえない現場で、楽しんでもらいながら過ごせてもらえる今の環境、ケアを大事に、これからも皆さんのお家のような場、アットホームなグループホームを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中に立地し、3階建ての介護複合施設で、1階に通所介護、3階に住宅型有料老人ホーム、2階部分に当該事業所と地域密着型通所介護が併設している。法人は他にも介護事業所を複数運営しており、法人の就業規則の整備や職員研修の実施がされている。事業所は地域の介護施設として、市の指定避難所や介護予防事業の委託、地域の小学校への車いす体験の講師等の役割も担っている。利用者の介護計画は一人ひとりに合わせた内容になっており、意向や思いを把握し、利用者がこれまで大切にしてきたことが入居後も継続できるような支援に努めている。入浴の時間帯や回数など利用者のペースに合わせて支援したり、食事の準備や買い物、ごみ捨てなど利用者の役割を大切にしている。理念にある「たくさんの笑顔を応援」するために、職員は利用者を自分自身に置き換えてより良いケアの実践をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの見えるところに置く事で、職員全員が目標や理念を意識して動けるように環境づくりをし、ミーティング等で確認するようにしている。	事業所独自の理念を掲げ、職員には新人研修で説明し、事業所の共有スペースに掲示することで普段の業務中やミーティング等の際にも目につき理念を意識できるように工夫している。利用者や家族、地域住民にも周知できるようにパンフレットに理念を掲載している。職員は「たくさんの笑顔を応援」に沿って、利用者を自分自身に置き換えながらより良いケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が緩和されるまでは地域活動も途絶えていたが、緩和されてからは職員と一緒に買い出しや、外出行事等を取り入れてた。	市からの介護予防事業委託で、事業所がある建物内で筋力アップ教室の開催に管理者が関わり、地域住民の参加がある。また、地域の小学校への車いす体験や公民館で開催されるミニデイサービスにも職員が出向き協力している。利用者は職員と一緒に近所のスーパーに買い物に出かけた際に地域の人と挨拶や会話を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	宜野湾市内の小学校へ、車椅子体験という事で講師として参加。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年、2月に開催。これまでは書面開催だったが、管理者の体調不良の中で開催が厳しい時期であった。今回はコロナ禍が緩和されたので久しぶりに現場での会議を予定していたがコロナのクラスターが重なり書面開催ではあったが、活動報告や地域の意見の聴取をすることが出来た開催した。	2ヶ月に1回の頻度で開催しているが、管理者の交代や感染症拡大防止の観点から今年度は6回とも書面開催となっている。構成員に会議録を手渡しで配布し返書用書式にて意見を頂いている。構成員からは感染症対策や活動状況への意見や助言があり、議事録内で事業所の考え方としてまとめている。議事録は事業所入口内にファイリングし、常に関覧できる状態にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	宜野湾市GH連絡会に参加し、他GHや市との連携が取れている。	市のグループホーム連絡会に市の担当者が参加し、意見交換がしやすい関係づくりができてい。また、事業所建物は市の指定避難所となっており、事業所の運営推進会議にも市の担当者や地域包括支援センターの職員が構成員となっている。今年度は急遽管理者交代となった際に、市担当者に相談し助言を受けるなど連携が図れている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で研修を開催し、身体拘束について職員みんなで理解を深めながらケアに努めている。	2ヶ月に1回の運営推進会議後を活用し、身体拘束等廃止検討委員会を開催している。今年度は対面での開催ができなかったため、事業所職員間で身体拘束等適正化について話し合った内容を運営推進会議の構成員に書面で報告し意見を頂いている。身体拘束等の適正化のための指針が整備され、年2回の職員への研修も実施されている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等の話し合いの場で、気になっているケアについて話し合う場を設け、みんなで確認し合いながら業務に努めている。	高齢者虐待防止の指針とマニュアルが整備され、職員への研修も毎年実施されている。法人は職員の「健康経営」を掲げ、職員のメンタルヘルス等の健康管理の取り組みや、事業所職員間では日頃からケアについて意見を出し合いお互いが利用者の尊厳や虐待防止を意識している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、権利擁護や制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に契約書の内容の説明を行っている。契約の内容を理解した上で署名、捺印を頂いている。また、不明点はいつでも相談出来る事も説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・年一回サービス満足度アンケートを実施して、意見の聴取をしている。 ・面会時や電話、LINEを活用して、相談や意見の確認もしている。	毎年利用者家族向けにアンケートを実施している。その他、家族とは電話やLINE、面会時に意見を聞き取っている。一時的に車いす使用の利用者を自宅に連れて帰りたいと家族からの要望があり、職員がスロープ設置等の提案を伝え実際に帰宅することができた。利用者からは日頃のケア中の発言から意見や要望を汲み取るように意識している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日々の業務時や、毎月のミーティング・カンファレンス等で相談や意見を聞いている。 ・年1回職員満足度アンケートがあり、働きやすい環境づくりの為に意見をまとめている。	職員は月1回ずつのミーティングとカンファレンスを開催し、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また、日頃の業務の中で気になったことは業務日誌内の「本日の業務課題」の欄があり記入している。今年度は朝食作りについて、職員の業務負担を軽減し利用者との関わる時間を増やす目的で、調理から湯煎食材へ変更した。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事評価制度を設けている。 ・職員のシフト調整には、全職員の理解と協力を得てシフト作成している。	法人の就業規則が整備され、ハラスメント防止の指針も記載がある。就業規則が変更された際には職員に確認するように周知している。職員は年1～2回の健康診断が実施され、職員の体調に合わせて部署の異動も柔軟に対応している。有給休暇の取得もできており、職員の希望でシフトの調整も行え、働きやすい就業環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・一人一人に業務分担や居室担当等を行う事で、常に目の前の事を意識しながら業務にあたれるようにしている。 ・スキルアップの研修にも参加。実践者研修。(令和5年度1名)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今年度もグループホーム連絡会へ参加する事が出来、色々な事業所の情報や、相談といった交流を持つことが出来た。その後、必要な内容は現場の職員にも情報共有した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者様本人へ、やりたい事や困っている事を確認したり等、寄り添い、孤独にならないように努めている。必要な情報がある時は、職員間で情報を共有し、より良い提案を出し合う。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・グループホームの流れや様子を知って頂き、不安や要望があれば確認しながら信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人様の現状に合わせた対応や、現場で出来る事、難しい事などを初めにお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者様が積極的に取り組みたいとしてくれる洗い物や洗濯物量み等を、お願いしたり一緒に取り組んだりしながら、活動の中で会話ややり取りを楽しみつつ、そういう時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会制限が解除され、以前のように家族様がいらして一緒に過ごす時間が持てるようになった。 なかなか面会に来られない家族へも、LINEや電話などを用いて生活の様子をお伝えしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・県外から面会に来られる方もおられ、そのような場合でも、施設内でゆっくり面会を楽しんで頂けるよう案内をしている。	利用者の生活歴や職歴を入居前に本人や家族から聞き取り、行きつけの美容室に通い続けている利用者や、趣味のダンス仲間、デイサービスを利用していた時の友人との交流など、入居前からの関係が継続できるように支援している。 利用者が8年前に趣味活動で作成したちぎり絵を事業所内に飾り、利用者が大切にしてきた事等を尊重している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・朝は一緒に体操を行ったり、日中にはもやしのひげ取りや、お茶葉の袋詰めなど、一緒に取り組める活動を取り入れ、共同作業をする中で利用者同士が声掛けをし合える環境づくりに努めている。作業が難しい方も、傍に案内し、離れた所で孤立しないよう意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・令和5年度のサービス終了者は1件であったが、ご逝去での終了となった為終了後の関りは無かった。ただし本人の兄弟が「ふれあいのGH」への入居を希望し、住所地の那覇市の国場GHへ入居。さらに国場へ入居した妹は6年前の愛知GH入居者様の奥様であり、一度終結したご縁が再び繋がるケースとなった。(当時も家族の支援としてご主人ご逝去後もフォローしていた。認知症疑いもあった為)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・定期的に、本人様の意向を確認したり、ケアプランの見直しを行ったりと、可能な限り、利用者様一人一人の要望や生活リズムに応えられるようにしている。	利用者の思いや意向は日頃の生活場面での発言や表情から汲み取り把握に努めている。これまで朝と夕に入浴していた利用者が入居後も習慣を継続できるように支援したり、利用者自身の希望で食器洗いを役割として継続支援をしていたが、「疲れる」との発言や疲れた表情から、回数の頻度を減らすなど利用者にあった支援方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族様やご本人様との会話の中で、好きだった事や生活歴を確認し、情報は職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・介護記録やカンファレンス(モニタリング)等で、状態の変化や気づいた事を話し合い、その時の個々の状態に合わせたケアを実施している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月1回のカンファレンスでモニタリングを行い、その時の状態をふまえてプランの見直しを職員全員で行っている。	入居前の面談と計画見直しに応じて利用者の意向は直接聞き、家族の意向は電話やLINEを活用して聞き取り計画を作成している。計画の長期目標は1年、短期目標は6ヶ月を基本に設定し、状態や状況が変わった都度計画を見直している。家族の通院付き添いが困難になったため、受診代行サービスを提案し計画に反映するなど利用者の現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・話し合いの場で、記録の大切さを再度確認し、こまめな情報も職員間で共有している。 ・タブレット入力も取り入れつつ、ペーパーの記録用紙を見やすい形に作り変えたりしながら、記録の仕方を充実させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・必要に応じて、家族だけでの病院受診や退院のお迎えなどでは、職員同行し、家族様の負担軽減にも努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所のスーパーへ、職員や複数の利用者様と一緒に買い物へ行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・訪問診療(4名)、定期受診(5名)で、家族様が病院受診へ連れていかれる際は、情報提供書を作成し、安心して病院受診が出来るようにしている。	利用者の約半数はかかりつけ医が訪問診療となっている。通院は家族が対応し、管理者が状態など書面に記載し情報提供を行っている。受診後、担当医より書面での返信や家族から口頭で内容を確認している。また通常より訪問看護事業所と電子媒体を活用し、情報共有や相談、助言を得るなど健康維持に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週一回、訪問看護師による健康管理を行っている。その際に、相談やアドバイスも聞いてもらっている。それ以外では24時間、看護ステーションへの連絡が来、そちらでも報告や助言をもらう事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時、病院への情報提供書提出や、退院カンファレンスへの参加など、常に情報のやりとりを行い、病院からの申し送りや助言などを現場の職員へ伝達、情報共有している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に終末期の指針の確認を行っている。終末期の対応が必要となる際は、家族様の意向を確認し、主治医、施設で話し合った事を現場の職員へ情報共有している。	入居時に家族へ重度化や終末期に対して、事業所の方針を説明し、意向を確認している。職員は看取りに関する研修参加や急変した事例の振り返りを行い、持病に対する心構えや尊厳のある生活を支援できるよう理解を深めている。利用者の変化に備えて、関係者で話し合いや連携体制作りに取り組んでいる。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・訪問看護、訪問診療とこまめな情報共有を行っている。緊急時の対応については、ミーティングで話合ったり、勉強会で学んでいる。	事故発生時は、早期に事故の分析、防止対策を行い、職員間で周知徹底、支援の統一を図っている。利用者の身体状態の急変や事故発生時に適切な対応が出来るように、勉強会の開催や消防士によるAEDや胸骨圧迫の方法など応急手当を学んでいる。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	・感染症については、勉強会を開催して学んでいる。 ・災害対策については、昼・夜を想定した訓練を行っている。	年2回、昼夜火災を想定した避難訓練を実施している。指定避難所である事業所は、今年度、地域住民の参加は無かったが、同一建物事業所で開催した「いきいき教室」を通して、次年度より地域住民の協力体制確保が進んでいる。3日分の備蓄品を一覧表で定期点検している。感染症については、指針・マニュアルの整備や勉強会を実施し、予防や対策への理解に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支						
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々のペースや気持ちを大切に、待つ姿勢・尊重した生活支援に努めている。 ・配慮が必要な場合は、情報共有の際に居室の名前(果物名)で伝えるようにしている。	職員は利用者の知り得た情報を他言しないよう、個人情報保護法を理解し、秘密保持の徹底を図っている。排泄など羞恥心を抱く場面では、さりげない言葉かけや対応をしている。共有リビングにて申し送りなど行う際は、居室名を使用し利用者のプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人様が望む事は、可能な限り叶えられるよう、職員間で連携をとりながら出来るようにする。 ・利用者様だけで難しい事は、職員も一緒に行う。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者様のペースや、その時の心身状態に合わせ、希望に寄り添った対応を行っている。 ・一人で過ごす時間も大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・着替えや入浴準備の際に、好きな服装を選んでもらったり、難しい時は職員からも提案してみ、オシャレも一緒に楽しみながら支援してる。			
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・朝食は夜勤明が調理し、利用者様の希望も受けながら、主食をパンに変更したいりしている。昼食や夕食は、別の所から配食、配達してもらっていてメニューが決まっているので、その日のメニューを事前に伝えたりして楽しみが持てるようにしている。	職員が朝食、夕食の炊飯と汁物作り、配食の惣菜を加熱調理している。昼食は同建物内で調理された食事を提供している。利用者は食器洗いや汁物の味確認、お茶パック詰めなど簡単な作業を役割分担している。職員も一緒に食卓を囲んで同じ食事を摂り、食べることの楽しさを共有している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食前、食後、おやつ等で水分チェックをしながら、食事量にも変化がある際は、ミーティング等の話し合いで情報共有し、その時に必要に応じた対応、食事等の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを行っている。 自分で出来る方は声掛け案内、一人で難しい方に対しては、職員が介助にて行っている。 訪問歯科と繋がっている方は、定期的に口腔内のチェックやケアをお願いしている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人一人の排泄パターンを把握し、状況に応じて声掛け案内や、誘導、介助などの対応を行っている。	排泄の自立に向け、日中はトイレでの排泄を実施し、現状の排泄動作の維持を目標に、排泄パターンの把握や環境整備をしている。夜間帯はパット交換希望に対し、自身のタイミングで行えるようにポータブルトイレの設置や後始末の袋を準備し、出来る動作の継続を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘解消効果のある食べ物の提供や、水分補給を促したり、訪問看護と情報共有しながら、排便日数のチェックに努めている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・1日おきをベースに、利用者様の気持ちやタイミングも大切にしながら無理強いをせずに案内している。 個々の状態に合わせて、シャワーキャリーやストレッチャーを使用している。	利用者の意向や生活習慣に合わせ、いつでも入浴できるよう柔軟に対応している。入浴拒否が強い場合は無理強いせず職員やタイミングの変更、言葉かけを工夫し対応している。浴室へ繋がる出入口が2箇所あり、脱衣所直通の出入口よりもトイレから脱衣所に繋がっている出入口からの案内の方が理解が得られやすいケースがあり、個々に合わせて支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・休める環境は、フロアのソファやベッド、各自居室と、色々な場所で休めるようになっている。基本、本人様のタイミングで休んでもらい、生活リズムの調整が必要な方は、昼夜逆転になりにくいう、必要に応じて声掛けや案内のタイミングの職員間で話し合っている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・提携している薬局の薬剤師によるセットや、服薬時に職員2名で声掛け確認をし合って、服薬ミスがないように努めている。 定期的な服用時間が決まっている方への対応は、アラームをセットし、こちらも飲み忘れがないように努めている。	地域の薬局と協働し、個別に薬を仕分けし、夜勤者が1日分をケースへセッティングしている。服薬マニュアルに基づき、誤薬防止に配薬時のダブルチェック、飲み忘れ防止にアラーム設置を徹底している。担当医へ細やかに報告・相談を行い、減薬に繋がった事例がある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者様の性格や残存機能を把握し、一つの家事に対して取り合い等のトラブルにならないよう、役割分担を決め、利用者様の積極的な意欲を大切に、楽しみながら取り組めるように努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ感染での制限が緩和され、少しずつ外出出来る行事や、家族様との外出などを行えるようになっている。	毎日、職員と一緒にゴミ捨てをしながら、事業所の外周散歩や外気浴を楽しみ、気分転換を図っている。今年1月は地域の神宮へ初詣で外出し、コロナ前の日常を取り戻しつつある。定期的に馴染みの美容室でのヘアカットも継続している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理はご家族様へお願いしていますが、家族様同意のもと、お預かりしている方は、領収書発行と出納帳を準備し、管理させて頂いています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を持っている方は、自由に使用し、持っていない方で、家族様へ電話をかけて欲しいという要望があった際は、こちらから家族様へ電話をかけて、利用者様へお繋ぎしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・日中は換気、もしくはエアコンで適温になるようにしている。 ・廊下の壁面には、見て楽しみながら季節を感じられるような飾り付けをしている。	共有リビングの一角に畳間があり、安らぎの空間スペースになっている。壁には季節に合わせた飾りや写真で、癒しの演出を工夫している。屋外テラスにはいつでも寛げる様に、ガーデンチェアを備えている。適切な採光や音、温度に配慮し、また感染対策に、空気清浄機を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブル席やソファ席等、色々な場所に座って過ごせる環境を作っている。 一人の時間を過ごしたい方にも、そういった場所を用意している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使いなれた物、思い出のあるものを配置したり、家族の写真を飾ったりして、安心して過ごせるような空間づくりに努めている。	入居時、使い慣れた馴染みのある小物など持ち込み、居心地よく過ごせる様に工夫している。また写真や自作の作品を飾り、リラックスできる空間を大切にしている。居室ドアのガラス小窓より光漏れが気になる方へは、目隠しシートの配慮も見られた。毎日、居室内の換気を徹底し、感染対策に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室の名前やトイレの表記なども掲示し、利用者が行きたいところに不安なく行けるよう、環境づくりに努めている。 必要な方には、居室の前に大きな目印になるものを飾り付けたりしている。		